

検査内容変更のお知らせ

拝啓 時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。
平素は格別のお引き立てをいただき、厚くお礼申し上げます。

さて、この度、下記項目につきまして、現行試薬の販売中止に伴い2022年10月29日より検査内容を変更させていただきますのでご案内いたします。
誠に勝手ではございますが、何卒ご了承の程お願い申し上げます。

敬具

記

■対象項目/変更内容

頁	項目コード	検査項目名	変更箇所	新	旧
90	3409	アスペルギルス抗体	項目コード	3197	3409
			検査項目名	アスペルギルス抗体 IgG	アスペルギルス抗体
			検体量 (容器)	血清 0.3 mL (容器番号:01)	血清 1.0 mL (容器番号:01)
			保存方法 (安定性)	冷蔵(28日)	冷蔵
			検査方法	ELISA	オクタロニー法
			基準値 (単位)	5.0未満(AU/mL) 陰性	陰性
			検査実施料	未収載	(同左)
			所要日数	3~6日	6~9日

※その他の検査要項に変更はございません。

■変更期日

- 2022年10月29日(土)受付日分より

アスペルギルス抗体 IgG

アスペルギルス症の診断補助に有用な検査です。

アスペルギルス症は、侵襲性肺アスペルギルス症 (IPA)、慢性肺アスペルギルス症 (CPA)、アレルギー性気管支肺アスペルギルス症 (ABPA) の病型に大別されます。感染症としての IPA と CPA では下気道検体からの培養検査が確定診断となります。血清学診断では β -D-グルカンがスクリーニング検査として有用ですが特異的でないといわれています。ガラクトマンナン (GM) 抗原は IPA の診断には有用ですが、CPA に対しては感度が低いことが報告されています。抗体検査には CF 法、沈降反応、ELISA 法などがあり、CPA では GM 抗原に比べ有用性が高いことが報告されています。ABPA の診断にも特異的 IgG の検出が有用とされています (Rosenberg 診断基準)。

▼疾患との関連

アレルギー性気管支肺アスペルギルス症 (ABPA)
侵襲性肺アスペルギルス症 (IPA)
慢性肺アスペルギルス症 (CPA)

▼関連する主な検査項目

アスペルギルス抗原
 β -D-グルカン

■検査要項

項目コード	3197
検査項目名	アスペルギルス抗体IgG
検体量(容器)	血清 0.3 mL (容器番号:01)
保存方法(安定性)	冷蔵 (28日)
検査方法	ELISA
基準値(単位)	5.0未満 (AU/mL) 陰性 ※判定基準は下記参照
検査実施料	未収載
所要日数	3~6日
報告範囲(単位)	1.4未満、1.4~79、80以上 (AU/mL) 判定:陰性、判定保留、陽性
桁数	有効2桁、整数2桁、小数1桁
備考	
検査委託先	エスアールエル (→5)

●判定基準

AU/mL	判定
5.0 未満	陰性
5.0~9.9	判定保留
10 以上	陽性

●相関一致表

		現法	
		陰性	陽性
新法	陰性	20	7
	陽性	0	38

一致率: 89.2% (n=65)

(エスアールエル検討データ)

■参考文献

国内文献投稿予定(検査方法参考文献)

Dumollard C, et al: J Clin Microbiol 54(5): 1236~1242, 2016. (臨床的意義参考文献)